

配線器具の事故

事故の概要

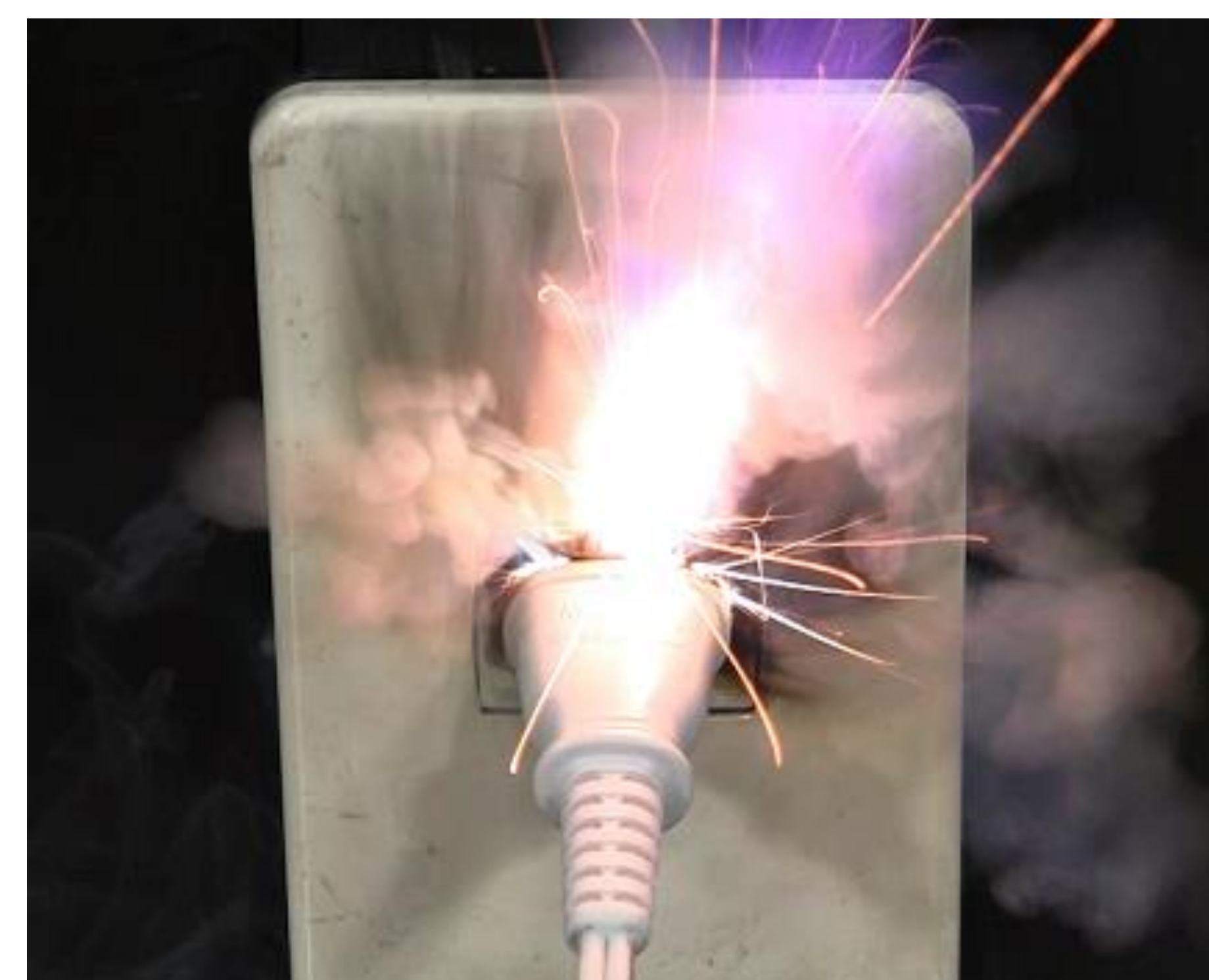
- 【事例①】火災が発生して1人が死亡、1人が軽傷を負った。現場に電気あんかがあった。
- 【事例②】使用中のエアコン付近から出火し、1人が軽傷を負った。
- 【事例③】壁コンセント付近から出火し、壁の一部などを焼損した。



【NITEの再現実験】机の脚に踏み付けられていたコードから発火

事故の原因

- 【事例①】電源コードをねじれたまま使用していたため、断線して火花が出たものです。
- 【事例②】エアコンの電源コードを途中で切断してねじり接続をしたため、接触不良により異常発熱したものです。
- 【事例③】タップとプラグの間にホコリが付着してトラッキング現象が発生したものです。



【NITEの再現実験】トラッキング現象による発火



事故防止のために

- ◆コードを曲げたり、ねじったりしないでください。また、傷つけたり、踏みつけたりしないでください。
- ◆コードの修理は専門家に依頼してください。
- ◆トラッキング現象を防ぐため、器具を長期間使用しないとき、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源プラグにホコリや水分が付着しないように気をつけてください。

トラッキング現象とは？…テーブルタップやコンセントとプラグの周辺にホコリがたまり、そこに水滴や湿気が影響してプラグの刃と刃の間に電流が流れて火花放電を繰り返します。そうすると、刃と刃の間の樹脂部分が炭化し、電気が通るようになるために発火する現象です。

